

受け持ち看護実習	2年・後期	2単位	教授 赤石三佐代他
科目カテゴリー	看護提供のあり方	科目ナンバリング	33110612

1. 授業のねらい・概要

健康障害のある対象者の生活行動におけるニーズを理解するとともに、看護実践の体験を通して看護過程を展開し、健康回復に関わる看護の基礎的理解を深める。

2. 到達目標

1. 対象者に関心をもち、人間関係を築くことができる。
2. 健康障害が対象に与える影響を理解し、療養上のニーズを捉えることができる。
3. 対象の個別性に適する具体的な援助計画を立案し、実践することができる。
4. 看護実践の体験を通して自己をみつめ、看護に対する理解を深めることができる。
5. 看護学生としての責任と態度について考え、行動することができる。

3. 授業の進め方

数名の学生で編成したグループ単位で実習病棟に配置する。学生1～2名で患者1名を受け持ち、臨地指導者や教員の指導のもとで看護援助を実践する。実践した看護について記録や面接指導等で言語化するプロセスを通し、看護や医療についての理解を促進するよう指導する。

4. 授業計画（実習/実技）

期間	: 2週間
場所	: 病院
実習内容	: 受け持ち看護実習要項参照
諸注意	: 看護学実習共通要項参照

5. 成績評価の方法・基準

1. 実習記録・学びレポート 80%，知識確認試験 20%により総合的に判断する。
2. 実習評価の内容については実習要項に評価表を提示する。

6. テキスト・参考文献

- ・リンダ J. カルペニート，竹花富子訳，看護診断ハンドブック，医学書院
- ・既習の授業科目のテキスト，看護辞典，医療系略語集などを活用すると共に，実習ガイドや臨地実習関連書籍・雑誌等を参考書として用いる。

7. 準備学習に必要な時間，又はそれに準じる程度の具体的な内容

授業計画の範囲について最低1時間以上の予習および授業内容の復習を行う。

8. 受講上の留意事項

看護学実習共通要項に従い実習開始までに感染症対策を行う。また，実習期間の健康管理を行う。

9. 課題に対するフィードバック

提出物は教員が内容をチェックして返却する。内容の不備なものは再提出を求めることがある。実習評価については口頭で内容を伝達する。試験については実施の際に解答などを説明する。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目であり，修得できない場合は進級不可となる。

11. 実務経験のある教員等による授業科目

該当する本授業は，看護師としての実務経験を活かして，実習の指導を行う。